

【アゼルバイジャン経済トピック 75 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2022 年 2 月 11 日

産業パーク等への企業誘致

1. 昨年 7 月に経済トピック:「産業多角化への取組～『インダストリアル・パーク』と『産業地区』の設置」を配信しましたが、今般、産業パークの一つである「ピララヒ産業パーク」を訪問し、所管当局である経済区域開発庁(Economic Zones Development Agency)から、同庁と各産業パーク、及びピララヒ産業パーク入居企業に関するプレゼンテーション資料が提供されましたので、皆さまに共有いたします。

2. 経済区域開発庁は、2021年1月、大統領令により経済省傘下に設立され、現在国内6か所の産業パーク(Industrial Park)、4か所の産業地区(Industrial District:中小企業向け団地・共同工場)、51か所の農業パーク(Agro Park)を所管しています。産業パーク及び農業パークでは、法人税・固定資産税等の10年間免税、ワンストップサービス、インフラ整備等の投資促進措置を講じています。

※ なお、Economic Zone、Industrial Park 等の日本語表記を、昨年 7 月の経済トピックから上述のとおり改めておりますので、ご了承ください。

3. 第2次ナゴルノ・カラバフ紛争後の解放地域においても、アグダム及びアラズバレー(ジェブライル)の2か所に産業パークを建設中です。アグダム産業パークでは帰還住民の女性向け雇用創出のため織物産業等の誘致を検討、またアラズバレー産業パークはトルコ・ナヒチバン・ザングズル(アルメニア)・アゼルバイジャン本土と繋がる物流ルート上に位置するため、ロシア、イタリア、トルコ、中国等の企業が進出に関心を示している由です。

4. ピララヒ産業パーク入居企業である Diamed 社は、アゼルバイジャン初の医療分野の工場、南コーカサス初の使い捨て無菌注射器メーカーです(ISO規格適合、年産150万本)。注射針はニプロ社製、ラボではミットヨ社の計測機器を使用していることについて、「日本製品は高価だが品質、信頼を重視する観点から積極的に調達している、構想中の医薬品や注射液の製造工場操業時にも機材調達は日本製品を優先する考え」とのことです。

(以上)